

弁護士宛ての直筆の手紙 (63歳ごろ)★

1899年3月、梅子が英国でナイチンゲールから贈られた花束の押し花

(いずれも写真提供:津田塾大学)

社)、「学習まんが 世界の伝記NEXT ナイチンゲール」(集社)、「やさしく読めるビジュアル伝記5巻 ナイチンゲール」(研プラス)、「おもしろくてやくにたつ子どもの伝記11巻 ナイチンゲール」(ポプラ社)ほか

自然を見つめ、

災害に挑む

空気は気圧の高い場所から低い場所に流れる。それを「風」と呼ぶ。

岡山大で大学院生だった1998年10月、広島風を研究していた。台風が紀伊半島の南を通る際、鳥取、岡山両県にまたがる那岐山(1255m)から南麓に吹き下ろす強い局地風だ。瞬間風速は50m/sに達し、被害をもたらす。折しも台風10号が日本に接近中。山に気圧計を置き、下山した。

このころが10号は予想進路を外れ、鹿児島県枕崎市付近に上陸。その後、那岐山を直撃した。

広島風は吹かず、代わりに珍しい現象をとらえた。台風の気圧は中心付近で最も低くなると考えられがちだが、中心付近が通過した後、気圧が急落していた。世界的な気象学者の故藤田哲也博士(98年11月19日没)が52年に命名した「プレッシャーディップ」だった。

風が弱まった後、再び猛烈な風が吹き始める。大雨を伴うことも多い。発生地域の被害は大きくなる。転倒したり、飛来物



横浜国大教授の筆保弘徳さん

横浜国大教授 筆保 弘徳さん

風に導かれ第一人者に

が当たったりして命を落とす人が出てくる。

プレッシャーディップに遭遇したことをきっかけに台風の研究に没頭した。台風は発生予測が難しく、急速に発達する要因など謎も多い。防災面からも研究を深めることが求められている。

実は岡山大理学部で気象学研究室の扉をたたいたのは「先生が楽しそうだったから」。風任せ、意欲がわくままのめり込み、日本を代表する台風研究者の一人になった。

ふでやす・ひろのり 75年岩手県金石市生まれ、岡山市育ち。今年4月から現職。学校教育を通じて社会全体の防災意識を高めるための研究にも取り組んでいる。44歳。

進路予想図で、予報時間に台風が中心が予報円の内側にある確率は70%。将来の予報円が大きくなるのは台風が勢力を増すからではなく、進路予測がさらに不確実になるため。

台風 熱帯低気圧(熱帯の海上で発生する低気圧)のうち北西太平洋にあり、最大風速(10分間の風速の平均)が秒速約17m/s以上のもの。進路予想は現代でも難しく、気象庁が発表する

山陰中央新聞

2020 8/4 (14)